工藤真由美1979 「依頼表現の発達」『國語と國文學』昭和五十四年一月号 東京大学国語国文学会
佐藤里美1992 「依頼文 ―してくれ、してください―」（『ことばの科学５』むぎ書房）
鈴木重幸1972 『日本語文法・形態論』（むぎ書房）
高橋太郎1974「標準語の動詞と京都弁の動詞」『言語生活』270号（のち1994『動詞の研究』むぎ書房にも所収）
――――1975『幼児語の形態論的な分析 ―動詞・形容詞・述語名詞―』（国立国語研究所 秀英出版）
――――ほか2005 『日本語の文法』（ひつじ書房）
趙彦志2007 「依頼表現「～てくれ、～てください」の考察―日中対照研究を目指して―」（『対照言語学研究』17海山文化研究所）
―――2009 「依頼表現をあらわす『～てください』形の諸特徴」（『東アジア日本語教育・日本文化研究』12輯 東アジア日本語教育・日本文化研究学会）
陳常好1987 「終助詞 ―話し手と聞き手の認識のギャップをうめるための文接辞―」（『日本語学』６－10明治書院）
仁田義雄1991 『日本語のモダリティと人称』（ひつじ書房）
宮崎和人・野田春美・安達太郎・高梨信乃2002 『新日本語文法選書４ モダリティ』（くろしお出版）
村上三寿1993 「命令文 ―しろ、しなさい―」（『ことばの科学６』 むぎ書房）

【付記】小論の筆者は文学研究科の卒業生で、今年３月に別府大学を離れて母国の大学に勤めることになりました。在学の間、大学の先生方に大変お世話になりまして、ここに記して感謝申し上げます。今年は安東先生の御定年退職にあたり、先生には、ますますご健勝の上、今後も末永く優れたご研究を発表していかれることを心より祈念いたします。

内田康夫 『美濃路殺人事件』 角川書店 1997年
奥田英朗 『イン・ザ・プール』 文藝春秋 2006年
梶尾真治 『黄泉がえり』 新潮社 2002年
川端康成 『舞姫』 角川書店 1954年
木谷恭介 『四国松山殺人事件』 双葉社 2002年
黒岩重吾 『西成山王ホテル』 角川書店 1970年
佐藤正午 『Y』 大杉明彦 角川春樹事務所 2001年
高杉良 『対決企業内帝王と戦う男たち』 集英社 1985年
高瀬美恵 『アンジェリークEXTRA』 角川書店 2002年
津村秀介 『西の旅 長崎の殺人』 祥伝社 1993年
藤堂志津子『ジョーカー』 角川書店 1993年
長津晴子 『最後の恋，初めての恋』 竹書房 2003年
夏樹静子 『デュアル・ライフ』 新潮社 1998年
――― 『白愁のとき』 角川書店 1996年
西村京太郎『伊豆誘拐行』 光文社 2000年
新田次郎 『強力伝・孤島』 新潮社 1965年
原田康子 『病める丘』 新潮社 1975年
東野圭吾 『白夜行』 集英社 2002年
平岩弓枝 『火の航跡』 文藝春秋 1980年
松本清張 『砂の器』（上・下巻） 新潮社 1973年
宮本輝 『焚火の終わり』（上・下） 集英社 2000年
森村誠一 『君に白い羽根を返せ』 角川書店 1986年
渡辺淳一 『愛のごとく』（上・下） 新潮社 1987年
――― 『風の岬』（上・下） 講談社 1991年
――― 『遠き落日』（上・下） 角川書店 1982年

参考文献

工藤 浩1982 「叙法副詞の意味と機能―その記述方法をもとめて―」（国立国語研究所『研究報告集３』秀英出版）

な形「～てください」形がよく使われるのに対してシテが「もの」になると、ぞんざいな「～てくれ」形が使われる。

6.　終わりに

「～て」「～てくれ」「～てください」三つの形は働きかける文の下位分類として統一され、似ている文法的機能がかなり多い。小論においてそれぞれの形の独立の側面に視点をおいて、三つの形が区別特徴の変化によってグループ分けも変わってくることが分る。小論考察の結果は大体次の表のようにまとめることができる。

「～て」「～てくれ」「～て下さい」の違い

区別特徴＼形式	「～てくれ」	「～て下さい」	「～て」
依頼形をとる動詞 ①尊敬動詞②謙譲動詞	②	①②	①②
終助詞 ①よ②な③ね	①／②③（少数）	①②③	①③／②（少数）
会話中の文体 ①普通文②丁寧文	①	①②	①
中止形と「くりかえし」形 ①あり②なし	②	②	①
シテが人間でないとき ①もの②神様・仏	①	②	―

この表に示されているように、「～てくれ」「～て」「～てください」三つの形は左側の区別特徴によってグループ分けも変わってくる。つまり、これらの形は「依頼形」の下位分類として一つに統一されるとともに、各自の文法的な意味・機能の独立性も保たれていると推察できる。

今後の研究課題として、以上のような結果を踏まえて実例に基づいてさらに区別特徴の存在を探る必要があると考える。

出典資料（ここに掲載していない作品は青空文庫に収められたものである。）

五木寛之　『わが憎しみのイカロス』　文春文庫　1977年
――――　『男と女のあいだには』（上・下）　新潮社　1982年

「～てください」形はこのような用法がなくて、一回きりの言い方が多い。

5.　動作のシテが人間でない場合

話し手の向かっているウケテが次の用例などで示したように「神様、死人、仏」など生きている人間でない場合、依頼内容はただの「願望」になる。

48) ――水神様、あの虹の橋を渡つて天の御殿へゆけるやうにわたしをして下さい。わたしは、おきいちやんの傍へゆきたう御座います、どうかわたしの願ひをききいれて下さい――　　野口雨情　『虹の橋』

49) アトを見送った私は倒れた印度人の死骸に向って頭をチョット下げた。「自業自得です。成仏して下さい」と黙祷すると…。　　夢野久作　『冥土行進曲』

50) そしてもう一度、東から今のぼった天（あま）の川（がわ）の向う岸の鷲（わし）の星に叫びました。「東の白いお星さま、どうか私をあなたの所へ連れてって下さい。やけて死んでもかまいません。」　　宮沢賢治　『よだかの星』

51) 康頼　（苦しみに堪えざるごとく）神々よ。わしに力を与えてください。
基康　船を出せ。（船動く）　　倉田百三　『俊寛』

52) 秀雄はみどりが見たことを察して、電源を消した。―神様、お願いです。僕の運命を変えて下さい。秀雄は無理だとわかっていても、そう祈らずにはいられなかった。　　橋部敦子　『僕の生きる道』

例48) のように女性の話し手は「～てください」形を使えるが、「～てくれ」形を依然として使いにくい。願望の用法は「～てくれ」形にも出てくる。ただし、相手は「神仏」でなく、単なる「もの」である。二つの用例をここで挙げておく。

53) 「われらの黒潮よ、日本にとどけてくれ。――救命浮環よ、通りかかった船にひろわれてくれ」と念じて、人目につくよう、帆布の小旗を立てて流した。
須川邦彦　『無人島に生きる十六人』

54) みんなで、伝馬船を沖に漕ぎ出して、それを流した。「銅の手紙よ、はやく、どこかへついてくれ。だれかにひろわれてくれ。……」一枚、一枚、海に流すたびに、伝馬船の上から見送りながら、みんな祈った。
須川邦彦　『無人島に生きる十六人』

これらの用例から分かるように、ウケテは「神様・仏」などの場合、丁寧

そうにつぶやいた。　　渡辺淳一　『愛のごとく』（下）

41）「しっかりやって来ておくれ、わしのことは気にしねえで」強いて気を落着けようと、声を高めていうおしんの声は震えていた。太郎八は鎌を腰に、背負袋を背にしていた。　　新田次郎　『強力伝・孤島』

これらの例のように、文末イントネーションの上下変化によって「～て」形の働きも変わることになる。つまり、「～て」の発音が尻上がりと認めれば、話し手から出される聞き手に働きかけの内容が二つに分離できるのに対して、尻下がりの場合、「～て」形は単なる中止形の可能性が高いと考えられる。そのとき、例41）の文は「倒置」の可能性が高い。

4.2 「くりかえし」形による違い

「～て」形において、「～て～て」のような「くりかえし」形は見られるが、「～てくれ～てくれ」「～てください～てください」のような用例は殆ど見当たらない。「～て～て」という形は次のような場面で使われる。

42）「よけてよけて、危ないぞ」掛声とともに、最初の担架が手前のベッドに運びこまれる。　　渡辺淳一　『風の岬』（下）

43）「ねえ、撮って撮って」ケータイを雄太に押しつけ、ピースサインを作っている。　　奥田英朗　『イン・ザ・プール』

44）伊良部は一向に気にする様子もなく、「見て見て」と景品を手に雄太のところへやってきた。　　奥田英朗　『イン・ザ・プール』

また、次のような「～て、～て」の「くりかえし」形もある。

45）「やめて、やめて！お願い、やめて！！」ゼフェルが両手で耳をふさいで怒りでした。　　高瀬美恵　『アンジェリークEXTRA』

46）「……とめてちょうだい。ああ、いや、いや。どうかなりそうだわ。もう、やめて、やめて、やめて…」と、蒼い顔の女が、うわごとのように口走った。　　松本清張　『砂の器』（下巻）

47）「じゃ、譲治さん、ボーイを呼んで頂戴、…あ、待って、待って！レモン・スクォッシュは止めにするわ、フルーツ・カクテルの方がいいわ」　　谷崎潤一郎　『痴人の愛』

その場面の緊張さが「くりかえし」形によって示されている。「～てくれ」

ある。少数派として普通文との共存も見られる。その時、話し手と聞き手との立場上の力関係、述べる内容が相手と向けられる強さの違い、その場の雰囲気などに大きく影響されると思われる。

37) 恵門は苛々したが、おとなしそうに見えた中年の運転手が、半分怒ったような態度で何回も訊き直す。「お客さんのいっていることはさっぱりわからない。もっとちゃんと説明してくださいよ」　夏樹静子　『白愁のとき』

38)「爆薬筒に当たったらどうするつもりだ」「だからもっと距離を近づけてください。時間がない、急いで。下ろすジェスチャーをすればスイッチを入れないかもしれない」　森村誠一　『君に白い羽根を返せ』

39)「ごくろうさん。このほかに常勤役員が四人いるが、野原君、あとで取締の諸君に三田君を紹介してください。そうか、明日の部長会に四人とも出席するわけだから、三田君が部長会に顔を出せば、一度で済むわけだ。三田君、すまないがそうしてもらおうか。それから、常勤役員会は月に一度、第三金曜日の午前十時に開催されるが、これにも出席してください」

高杉良　『対決　企業内帝王と戦う男たち』

最初二つの例、話し手は独言的なので普通体を用いている。相手への向けられ方が弱いと感じられる。最後の例、「そうか…わけだ」も話し手の気づきの面が強くて相手へはあまり向けられていない。

また、会話文以外（「　」がなくても）に、「～てください」がよく使われている。食品の品質管理項目、缶ジュースの蓋の周りに「気をつけてください」とよく記されている。使う消費者に対して、注意を呼びかける観点からいえば、働きかけ性を持っていると認めるべきであろう。

4.　「～て」形の特殊性

4.1　働きかけ形としての不安定の側面

「～て」形が中止（連用）形か終止形かの区別の点で、まだ落ちつかない側面があって、判断しにくいときがある。

40)「ねえ、もうコートなんか着るのはやめて、いつもこういう恰好になさいよ。五つは若返ってみえるわ」黒いセーターにジャンパーを着たとき、衿子は満足

瞬間、「痛あっ……」と叫ぶとそのまま唸る。　　渡辺淳一　『風の岬』（下）

3.　同じ会話中の文体による違い

形態論的に三つの形の丁寧さが違うので、一つの会話文において、周りの文の形も丁寧文と普通文で分けられる。ここから「～てくれ」「～て」と「～てください」を新たに分類できる。結論から言えば、「～てくれ」「～て」形と共存できる文は殆ど普通文で終るのに対して、「～てください」形は通例、丁寧文で終る。

まずは「～てくれ」文と普通文の場合

31）「迷うことはない」私は言い返した。「北川健の物語を読んでどう思ったか、お互いに感想を述べ合うところから始めよう。まずきみから、手みじかにやってくれ」「まだあのことを怒っていらっしゃるんですか？」　佐藤正午　『Y』

32）「私は、どうしたらいいですか？」亀井が、きく。「君はここに残って、五十嵐社長と行動を共にしてくれ。犯人が何を連絡してくるかわからないからね。シナリオ変更のことは、あくまで内緒だ」　西村京太郎　『伊豆誘拐行』

次は「～て」形と普通文の場合

33）が、万穂子は調子をあわせる。「よして。人数の少ない職場だから、すぐにバレてしまうわ」　藤堂志津子　『ジョーカー』

34）「どうぞ、あがって。麦茶ぐらいしかないけど。あっ、ビールでも買うて来るわ」と言った。　宮本輝　『焚火の終わり』（上）

「～て」形の用いられる相手は殆どミウチなので、普通文との共存がもっとも一般的な形である。

最後は「～てください」形と丁寧文と共存の場合

35）「天気がよければ、もう少し見通しがきくんですが、今日は霧も出ていますからねえ。--すべりやすいから足許に気をつけてください」夏樹静子　『霧氷』

36）「この間の会議の資料、自分なりに手を入れたんですけど、一応、チェックしてください」森口は、驚いたように早瀬を見上げた。

長津晴子　『最後の恋，初めての恋』

これらの用例のように、「～てください」形は丁寧文との共存が一般的で

の用例が多数ある。終助詞「な」によって三つの形を違うグループに分類できる。先ず、「～てくださいな」から見てみる。

23)「だったら、わたし回るところがあるから、夕食はすませて帰ってきてくださいな」伊川治は答えない。　五木寛之『男と女のあいだには』(上)

24)「そやったら、この下の座敷でちょっとお休みやすな。誰も来いしめへんよって。」「じゃあ、そうして…あちらのお発ちの時に起こしてくださいな。」

円地文子『あざやかな女』

次は「～てな」と「～てくれな」の用例である。

25) 鬼平は半ば信じられない思いで、その腕を引き寄せた。ポケットベルが鳴ったのは、その瞬間であった。「あっ、ちょっと待ってな……」

木谷恭介『四国松山殺人事件』

26)「おっか、元気でな」翁島の停車場まで送りにきたシカの手を英世はしっかりと握った。「アメリカ行って、しばらく金も送れねぇけど我慢してくれなぁ」

渡辺淳一『遠き落日』(上)

後者の話し手はすべて男性である。

2.3　終助詞「ね」

「ね」のつきぐあいによって「～てくれ」形と「～て」「～てください」形に二分類できる。「～てくれ」の場合、「～てくれね」の形は殆ど使われていない。「～てね」「～てくださいね」形はよく使われているし、性差の問題もそれほど顕著ではない。男女の用例を一つずつ挙げる。

27)「雪が凍みてるから気をつけてね。滑る」と、駒子は島村を振り向いたが、その拍子に立ち止まって、…。　川端康成『雪國』

28) リンは、中国語会話初級のテキストを腕に抱えたまま、張教授を見やった。「期待しているよ頑張ってね」　長津晴子『最後の恋，初めての恋』

次は「～てください」の場合、

29)「ゆっくりしていってくださいね」穏やかな口調でそういうと、雪穂の母親は居間を出ていった。どこか病弱な印象を江利子は受けた。東野圭吾『白夜行』

30)「少し我慢してくださいね」大石主任がいいながら、折れている肢を持ち上げる。

2.1　終助詞「よ」

終助詞「よ」は命令文も含めて、殆どの働きかける文において使われる。

15)「さあ、早く帰って、全部Kの字のついた下着を着せてもらうといいわ」「おい、そういういい方をするのは、よせよ」　渡辺淳一　『愛のごとく』(上)

16)「ひゃあぁっ。やめてくれよ優一兄ちゃん。やめてくれぇ」秀哉はのけぞって身悶えする。　梶尾真治　『黄泉がえり』

17)「やめてよ。赤ちゃんなんて考えるだけでノイローゼになるわ」閻魔ちゃんの声は、ビデオを通しても、やはり酒嗄れしたダミ声だ。

吉田修一　『最後の息子』

18)「また機会があったら遊びに来てくださいよ」堀熊老人が一同を代表して言った。

森村誠一　『君に白い羽根を返せ』

「よ」以外、方言からの影響か、命令形も含めて、働きかけ形＋「や」の形も見える。

19) 雄一が歩きかけると、「おい、ちょっと待てや」といって牟田が呼び止めた。

東野圭吾　『白夜行』

20)「刑事をナメやがって、……まあ、とにかく歴史博物館なるところへやってくれや」歴史博物館は金華山の西…。　内田康夫　『美濃路殺人事件』

21)「今夜な、午前一時に、近鉄百貨店の前で待っとって、おくれても行くからな、必ず待っててや」　黒岩重吾　『西成山王ホテル』

22)「ときどき電話でもしてくださいや、そのうち出来とるかもしれないで」頼りないことを言った。　内田康夫　『美濃路殺人事件』

2.2　終助詞「な」

「な」がつくか否かによって「～て」「～てくれ」と「～てください」形二つのグループに分類できる。「～て」形の話し手は殆ど女性である。終助詞「な」は基本的に男性の会話に出てくるので、両者の組み合わせ「～てな」形の用例がとても少ない。まれに使われることもあるが、話し手はすべて男性である。また、「～てくれな」形は古い小説中から見つかりやすいが、手元の現代小説からは一例しかない。それと比べて、「～てください」＋「な」

心配はいりませんから、聴きにいらして下さいませんか。」芥川龍之介　『路上』

11) そこへ若い古賀刑事が入ってきた。「被害者の奥さんが到着しました」「ようやく来たか。ほな、先に確認してもらおか。お連れしてくれ」中塚の指示に古賀は頷き、部屋を出ていった。　東野圭吾　『白夜行』

12) 処へ女中が入って来た。「早川様がいらっしゃいました」と云った。「丁度いい、ここにお通ししてくれ」と仲田は云った。　武者小路実篤　『友情』

用例が示すように、謙譲動詞は聞き手ではなくて、対象、或いは与格の人間に対する敬意だと見られる。特に聞き手に対する謙譲ではなくて、「～てくれ」は働きかけ形である。

また、「～てください」使役の形「～させてください」のシテは話し手自身になるが、このとき、動詞は謙譲動詞を使っても、文としてのバランスがとれて、話し手の謙遜的な意味が聞き手に伝えられる。

13)「…。今度の殺人事件でお忙しいところを恐縮ですが、二、三、お話を伺わせてください」と、浦上が頭を下げると、…。　津村秀介　『西の旅　長崎の殺人』

14)「なるほど……」宮之原はうなずき、「ひとつ、見せていただきたいのですが、ご主人の写真を拝見させてください」と、いった。…。「津多代さんの子供のころの写真があれば、それも拝見したいですね。アルバムを拝見させてください」　木谷恭介　『四国松山殺人事件』

2.　終助詞の視点から依頼形を分類する

依頼形「～てくれ」「～て」「～てください」の後に終助詞のつく場合がある。形によってどの終助詞がつくことができるのか、終助詞自身の文法的な機能にも影響される。例えば、性別の制限である。反対に、働きかけ形の強さの影響で終助詞もいろいろ制限が加えられることになる。代表的な用例は「～てくれ」と「ね」の組み合わせである。両者の間に語気強弱のギャップが大きいので、共起できないと考えられる。次に述べる「～よ」の場合は「ね」と違う。

4)「これ、召しあがって」私はやや呆気にとられて、夫人と二つの包みとを見較べた。

原田康子 『病める丘』

「～て」形は基本的に親しみを感じさせる働きかけ方で、これらの用例も同じ傾向を示している。次に、「～てください」形の場合を見てみよう。

5）それは、ホテルのメモ用紙で、「お大事になさってください」と、綺麗な整った字で、走り書きされていた。早瀬は、そのメモ用紙を暫く見つめていた。

長津晴子 『最後の恋，初めての恋』

6）用意していたことばを、やや唐突に口に出した。「あの、先生、どういう結果であろうと、直接私におっしゃってください。必ずお願いします」鈴木はこちらへ向き直って、口を開いた。 夏樹静子 『デュアル・ライフ』

7）「東神奈川の市立病院までいらしてください。急いだ方がいいでしょう」

五木寛之 『わが憎しみのイカロス』

8）「八時に、岡本さんがこちらにみえますので、くわしくは、彼からもお訊きになってください」 平岩弓枝 『火の航跡』

最初の三例、尊敬動詞「なさる」「おっしゃる」「いらっしゃる」が用いられている。また、例8）は「お～になってください」の形で示される。上位に立っている聞き手に対して、二重敬語の形になっている。このような形は最初単純の尊敬動詞よりさらに丁寧度が高くなると見られる。

1.2 謙譲動詞との併用

働きかける文は基本的に、話し手のために聞き手に動作を行なわせるので、聞き手との上下関係を問わず、謙譲動詞は殆ど使われていない。しかし、動作の向う対象はもし第三者になれば、第三者に対する尊敬の気持のあらわれとして、文の中に用いられても問題がない。そのさい、依頼文に「人名詞＋に」或いは「人名詞＋を」が省略されていると考えられる。

9）「澄子。このお客さまが、おまえの受け持ったこのお客さんのことで、何かおたずねになりたいそうだ。憶えてるとおりのことを、みんなお話し申しあげてくれ」主人は女中に言った。 松本清張 『砂の器』（下巻）

10）「じゃ一等の切符を一枚差上げてくれ給え。――失礼ですけれども、切符の御

依頼の意味を表す「～て」「～てくれ」「～て下さい」の違い

趙　彦　志

はじめに

筆者は小論において同じ依頼の意味を表す形「～てください」、「～てくれ」、「～て」三つの形の文法的な意味・機能を区別して考察する。論述するさい、特に依頼文中における各形式の働きの違いに注目して、最後にこれらの形の対立面を中心にまとめてみる。

1．依頼形をとる動詞の尊敬・謙譲形による違い

「～て」「～てくれ」「～てください」三つの形はそれぞれ違う丁寧度を持っている。その影響で、前の動詞も統一されているものではない。動詞もともとの形との併用がとくに問題ないが、尊敬動詞・謙譲動詞との間には違いが出てくる。

1．1　尊敬動詞との併用

「めしあがる」「おっしゃる」「いらっしゃる」など尊敬動詞の場合は「～て」「～てください」と併用できるが、「～てくれ」のとき、つなげて示すことができない。「めしあがる」のような動詞と「てくれ」形の丁寧度はそれぞれ違うのだからと考えられる。

まず、「～て」の形から見てみよう。

1）「ここを、出ましょうか」「はい。ちょっとお待ちになって……」波子は鏡を見ると、自分におびえるように、壁の鏡から離れた。　　川端康成　『舞姫』

2）入り口で、竹原が帽子をあずけるのに、波子はマフラのつつみを、陰から出して、「お帰りに、これもお受け取りになって……」　　川端康成　『舞姫』

3）「あ」と園部夫人は短く叫んだ。「おあがりになって」「桔梗です」私はかろうじてこたえた。　　原田康子　『病める丘』